

1 所在地 青森県八戸市大字根城

2 調査期間 一九八五年（昭60）五月～二月

3 発掘機関 八戸市教育委員会

4 調査担当者 栗村知弘・小林和彦・佐々木浩一・高島芳弘・藤

田俊雄

5 遺跡の種類 城郭跡

6 遺跡の年代 南北朝時代～江戸時代初頭

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

根城跡は東流する馬渕川に面した標高約二〇mの河岸段丘上にあ

り、本丸、中館、東善寺館
岡前館、沢里館の各郭から
なる平城である。

根城は建武元年（一三三三）

四）南部師行が築城し、寛

永四年（一六二七）二二代

直義の代に、現在の岩手県

遠野市に移封になるまでの
約二九〇年間、南部氏の居

城であつた。

木簡が出土した本丸については、昭和五三年から六〇年まで、環境整備を目的に調査を行い、郭の平場ひらばの調査を行った。木簡は昭和六〇年度に調査した本丸南端の井戸跡（SE三九）埋土から出土した。井戸は検出面で直径が二・七m、深さは六・三m以上で、素掘りの井戸と考えられる。木簡とともに、陶磁器（青磁碗、白磁、染付皿、美濃・瀬戸産灰釉鉢、唐津焼皿、備前焼播鉢）、金属製品（煙管、手斧、鉄釘、永楽通宝など）、木製品（柿板、熨斗板、火鑽臼）、木の枝（サクラ属、アオギリ属など）、木の実（オニグルミ、ウメ、モモ、クリ）が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ×田面木と□×

(110) $\times 20 \times 1$ 081

「田面木」は大字名であり、根城の西方に現存している。『南部八戸家系図』や明和八年（一七七二）に書かれた『三翁昔話』によれば、田面木は元亀二年（一五七二）には南部氏の領地になった。

木簡の年代は、伴出遺物から一七世紀前葉以降と考えられる。

なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館平川南氏、八戸市文化財審議委員小井田幸哉氏の御教示を得た。

9
関係文献

八戸市教育委員会『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅸ』（一九八七年）

(佐々木浩一)